HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	社会学特講
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	三十九年度　大学院修士
Issue Date	1964
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77367
Type	manuscript
File Information	N035_01S39.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

社會学特講

三十九年度

大学院修士

A
30
ノ
353

意匠登録
No.151492

新入生の希望研究テーマ
何を学びたいか

去年度講義の主旨は今の都市社会学における基礎的理論の紹介をなし現在における著しい都市化現象を説明し日本中が都市化して行く傾向を明かし工業化と共に日本中の都市化の方向を明らかにする。

日本中が一大都市となり市民社会となり世界連邦における地位を招来していく事。

現在の日本の成長振りは正に猛烈的
であると云へよう。政治との二つの社会現象
激動し続ける社会現象
この激動の中にあると観察しなければ
れは正しい理解は出来ないと云ひよう
の説明。

都市化現象、（甲村の分類学説、都市
個人主義化自由主義化合理化（民主化）
階増大理論）

都市的増大理論ー(1)、機関の発生、
(2)、未知人との関係の増加 (3)、関係の合理化、
(4)制度の合理化、（民主化
対人関係の民主化ー契約化、成文化、交易化
制度、組織の民主化ーー家族（夫婦家族型）
ー村落（選挙制、合議制）
官吏制（民主制の徹底）
｜北方等生活（契約制、交易制）
米国ではもうすでに全くこの態、この上の都市化は

ー機関の増大あるのみ。昨日の三千才の財布流し式（日本一出来事（内海の島）小豆島

都市の機能
都市と村落の別ー村落的機関の
有無、集合分散機関、九種
集合分散機関の増大　交通路線
の新設
国民社会内の都市の配置
統治の為の機点、樹枝状
上下交流　商業的交流の場
的交流ー首都型

戦後急激な都市化は都市そのものの拡大から
拡大ではなくして全国の農村が全く都市の郊外村に化して
来たる
都市の利用圏が大きな圏になったことである。
都市職域の[illegible]生活圏をなす都市の機圏
の利用圏になったのである。
この場合農村が近づいて行ったのではなく、
都市が農家の窓の下まで延出して来たる
に注意をすべきである。これは都市中心の
日常的生活活動の拡大に外ならぬ。その
社会的生活から最近の日常生活の段階を
社会的交流活動の変化という概念で理解する
ため也集団の日常生活
それで集団は社会的交流路線の変化と
云う事の結果的理解を述べたい。

都市の社会構造と二元性
都市の機能
社会的交流体系、人、物、心

合理化としての都市化

生産者間の横の関係は交換の合理化

貫ぬかれた合理化契約冷厳、

生産者の経営内部では上下関係が一元的の

官僚制支配の構造。横は契約支配。

管理と支配の必然的場合ー支配者は被支

配者もしeを一人く支配しているかうaの

支配の総量が批判されるのはないの　最高の

第三回（一〇、一三）

前々回は現在日本の工業化の進展

について、それに結びつけるかたちに

は日本の政治の諸問題を理解する

ことはむつかしいとのべた。

前回はそれらの総体を一応念頭

都市化、都市学として理解し

都市化都市的生活の体験的

説明の第一として都市構造よりみる

都市化についてのべたが今回は

都市よりみたる都市化について

す。

「都市問題研究」Vol.12 No.4 112号「都市計画と市民生活」の

一文を紹介する」

第四回

都市化と[illegible]は[illegible]社会的交流の激化現象に外ならぬことを論ずる

自然村の社会—常緑樹型社会（成員一部交替社会）

都市（の街頭）—落葉樹型社会（成員全部交替社会、未決定的社会 [illegible]親縁社会 交易関係社会 契約社会）

社会的交流—物、人、心

町村合併と社会的交流の激化

文明とは社会的交流の激化の過程